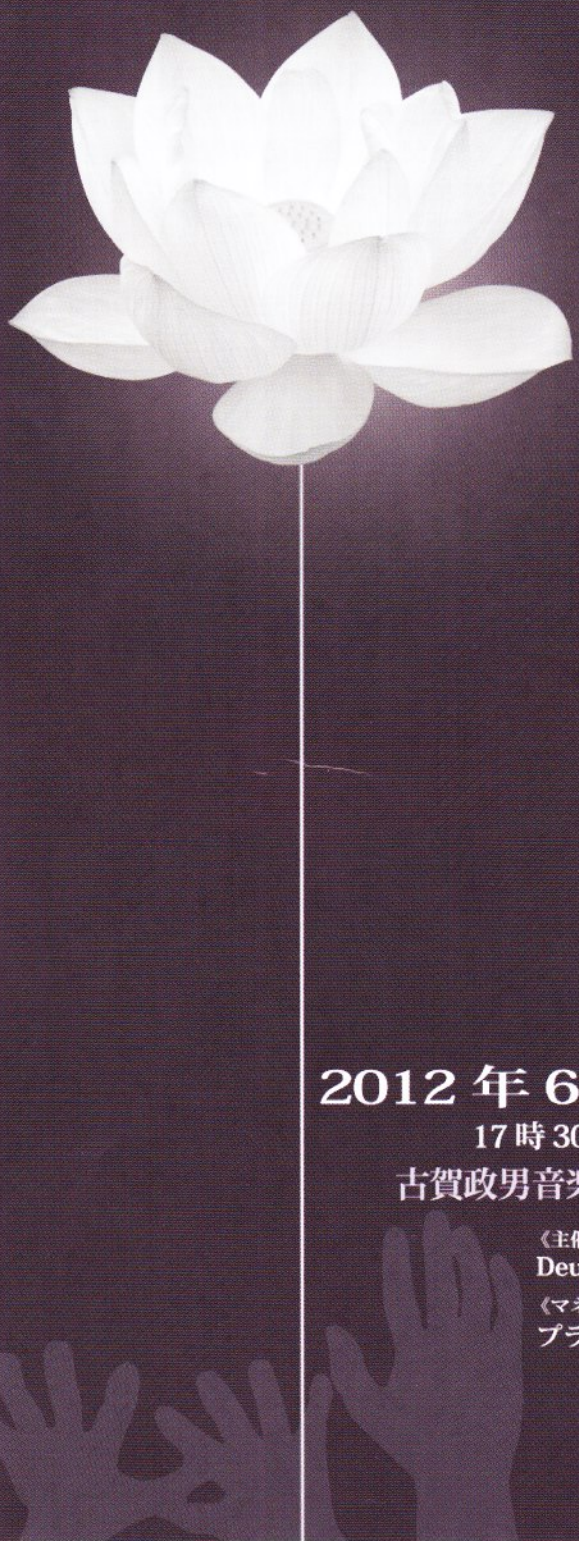
Deux Lilas presents 木下牧子

～木下牧子委嘱作品　音楽物語《蜘蛛の糸》初演～



2012年6月30日(土)

17時30分開場　18時00分開演

古賀政男音楽博物館　けやきホール

《主催》
Deux Lilas

《マネジネント》
プランニングオフィス・ネイチャ

ごあいさつ

本日はお忙しい中、私たちのコンサートにご来場くださり、どうも有難うございます。一緒に演奏する機会に度々恵まれてきた私たちですが、この様な形 ― 自分達の主催 ―で大々的にコンサートを開催するのは今回が初めてになります。

尊敬する作曲家、木下牧子先生に作品の委嘱をお願い出来たことも初めての経験であり、幸運でありました。木下先生とは、私、加藤は先生の初オペラ『不思議の国のアリス』（初演・再演）で白兎を演じたご縁、そして私、榊原は学生時代より伴奏者を勤めた合唱団にて先生の作品に触れ続けており、亡き父、指揮者の榊原栄が先生と仕事をご一緒したと言うご縁で近しくさせて頂き、先生の作品の大ファンになったのです。作品と同様、先生ご自身もとてもスタイリッシュで素敵な方でした。

また、せっかくなので委嘱作品の他にも木下先生の作品のみでプログラムを構成しようと言う話になりました。合唱曲としても親しまれている曲を先生ご自身がアレンジされた歌曲とピアノ・ソロの他に、素晴らしい助演のお二人 ― 小泉百合香さんと伊藤圭さん ―をお迎えして『ねじれていく風景』と言うクールなトリオを演奏して頂く事になりました。これは大変難しい作品ですが、お二人のお蔭でステージにのせる事が出来るのです。

そして本日初演となる音楽物語《蜘蛛の糸》～朗読、ソプラノ、クラリネット、ピアノのための～は、題材を芥川龍之介のあの古典の名作「蜘蛛の糸」に取り、ストーリーを音楽で紡ぎ出すという、木下先生にとって初めてのスタイルとなる作品だという事で、大変力を入れて創作して下さいました。それだけにハードルの高い楽曲ですが、誠心誠意取り組み、演奏して参ります。どうぞ最後までごゆっくりお聴き下さいませ。

感謝をこめて

ドゥ・リラ　加藤　千春
榊原　紀保子

プログラム

風をみたひと

クリスティナ・ロセッティ　作詩
木島始　訳詩

ユレル
さびしいカシの木

やなせたかし　作詩

草に寝て…

立原道造　作詩

夏

クリスティナ・ロセッティ　作詩
中村妙子　訳詩

９つのプレリュード～ピアノのための～ より
Prelude1
Prelude5

ねじれていく風景
～クラリネット、ヴァイオリン、ピアノのための～

Interval

音楽物語《蜘蛛の糸》　―委嘱作品―
～朗読、ソプラノ、クラリネット、ピアノのための～

芥川龍之介　原作

プログラム・ノート

風をみたひと

歌曲集「六つの浪漫」の第１曲。C.ロセッティは英国、ヴィクトリア朝の女流詩人。
兄は画家のダンテ・ガブリエル・ロセッティ。英国国教会の敬虔な信者で、宗教の違いから婚約者との結婚を破棄。幼い頃から肺を患っていた事もあり隠者の様な生活を送った。彼女の詩は控えめで優しく繊細である。

ユレル
さびしいカシの木

歌曲集「愛する歌」の第７曲と第８曲。漫画家で絵本作家、詩人の、やなせたかし氏のシンプルな詩にシンプルな音楽がつけられている。２曲とも合唱でもソロでも愛唱されている作品。

草に寝て…

歌曲集「六つの浪漫」の第３曲。建築家であり、詩人でもある立原道造は、昭和初期に活動し、結核のため　24 歳で急逝した。この詩には「六月の或る日曜日に」という副題がつけられている。昭和 13 年６月５日、恋人の水戸部アサイを連れて日帰りで軽井沢に旅行した道造は追分駅近くの草むらで彼女にプロポーズした。翌年の春に道造は亡くなっている…。優しく幸せに満ちている詩にそこはかとなく漂う哀しみを音楽が的確に表現している。

夏

歌曲集「C.ロセッティの４つの歌」の第２曲。１年のうちで本当に短く、そして爽やかで美しい季節、イギリスの夏の訪れを喜びに満ち溢れた詩と音楽が歌い上げる。

９つのプレリュード～ピアノのための～より
Prelude1　Prelude5

高校時代までピアノ科であった先生が敢えて遠ざかっていたピアノ作品。オーケストラや吹奏楽、そして合唱曲、歌曲などピアノ以外の曲を多く作っていくうち先生にとってピアノという楽器が特別でなくなった時期があった。“今こそいいピアノ作品が書けるような気がする”と書かれたのがこの【9 PRLUDES】。
縦の響き、横の流れ、そしてそこから浮かび上がる立体的な景色。ピアノという完成された楽器のもつ魅力がふんだんに盛り込まれた、美しくもクールな作品。

ねじれていく風景　～クラリネット、ヴァイオリン、ピアノのための～

ピアニスト柴田美穂氏の委嘱を受け 2004 年に作曲。三つの楽章はそれぞれ異なる手法で作曲。一楽章ではクラリネットとヴァイオリンのねじれたスケールの応酬に、ピアノが和音の楔を打ち込んでいく。二楽章はトリル、アルペジオ、ピチカートなどを多用した透明なしかし厚みのある響きに旋律が浮かび上がる。三楽章はピアノの 16 分音符の刻みの上をクラリネット、ヴァイオリンが掛け合いながら疾走していく。グリッサンドの多用が特徴。クラリネットとヴァイオリンという、音域が広く運動性に優れた２楽器を思い切り雄弁に絡み合わせ、そこにピアノの楔を打ち込むスタイルを取っている。(楽譜あとがきより)

音楽物語《蜘蛛の糸》　ー委嘱作品ー
～朗読、ソプラノ、クラリネット、ピアノのための～

加藤千春さん（ソプラノ）と榊原紀保子さん（ピアノ）のユニット”Deux Lilas”から音楽物語の委嘱を受けたのはもう3年くらい前の話です。最初は別々にピアノ曲集と歌曲集の依頼をいただいたのですが、どうせなら二人一緒にもっと面白い編成の作品を、ということになったようで、加藤さんの朗読と歌、榊原さんのピアノ、それにクラリネットを加えた「音楽物語」…という委嘱に変化しました。

面白そうではあるが実際どんな作品を書いたらいいのかピンとこなくて、最初の1～2年はテキストを求めて短編小説を読み漁るのみでしたが、半年前にホールを押さえたとの連絡を頂いて、一気に作曲モードに入りました。

台本作家が加わる場合は大胆な脚色が可能ですが、今回は題材選びから作曲家一人に任されたため、とりわけテキスト選択が重要となり、実に多くの短編集、民話を読みました。文体に品があり、内容が変化に富んでいて、音楽が入り込める色彩感と余白を持った短編…、無い物ねだりにも思えましたが探しまわった挙げ句、灯台元暗しで、芥川龍之介の名作「蜘蛛の糸」に落ち着きました。文庫で5ページ弱と短く、構成が極楽～地獄～極楽と変化に富んでいて、内容を誰もが知っている…理想的なテキストです。
ほぼカットなしで全文使っています。

もともと別々の委嘱だったこともあり、声楽だけが主役のモノオペラでも朗読の劇伴でもなく、朗読、声楽、ピアノ、クラリネットが対等に、場面により異なる組み合わせで変化に富んだ音楽を紡いでいくように構成してあります。
声は歌うように朗読し、語るように歌い、ピアノ、クラリネットもそれぞれの楽器の魅力を主張し、三者が渾然と混ざり合って「蜘蛛の糸」の幻想世界を形造っていきます。最初は淡々とした20分くらいの作品にするつもりが、音楽を展開するうち熱中して、最終的に40分近い作品になりました。

どんな初演を聴かせていただけるか楽しみにしています。

木　下　牧　子

木下牧子 略歴

東京生まれ。東京藝術大学作曲科首席卒業、同大学院修了。日本音楽コンクール作曲（管弦楽曲）部門入選。日本交響楽振興財団作曲賞入選。オペラ 「不思議の国のアリス」（モーツァルト劇場創立 20 周年委嘱作品）初演で三菱信託芸術文化財団奨励賞受賞。２年後の同オペラ全面改訂版は各界から絶賛を博し、主宰・モーツァルト劇場がエクソンモービル音楽賞を受賞した。主要作品に、オーケストラのための「呼吸する大地」、合唱とオーケストラのための「邪宗門秘曲」、吹奏楽曲「ゴシック」、打楽器コンチェルト、室内楽「もう一つの世界」、ピアノのための「夢の回路」、合唱組曲「方舟」、歌曲集「古風な月」、等。'08年に開催した第三回個展「室内楽の夜」は「この世代の作曲家としてひとつ抜きん出た存在であることを証明した」との新聞評をはじめ多くの音楽誌で高い評価を得た。出版はトータル80冊を超え、CDも「ふるえる月」（室内楽）、「へびとりのうた」（歌曲）、「迷宮のピアノ」ほか多数。現在、日本現代音楽協会会員。
公式サイト　http://www.m-kinoshita.com　ツイッター　@KinoshitaMakiko

プロフィール

Deux Lilas（ドゥ・リラ）

2003 年に結成されたソプラノ加藤千春とピアニスト榊原紀保子のデュオ。『ジャンルに囚われず、聴き手の皆様に楽しんで頂ける演奏』をモットーにサロン・コンサート、ライブ・ハウス、歌唱クラスなど多方面で活動。2007 年に「Sonorous～ソノラス～」リリース。

加藤千春
Soprano

東京藝術大学声楽科卒業、同大学院修士課程オペラ科修了。在学中に芸大定期オペラ「魔笛」夜の女王でオペラ・デビュー。二期会オペラスタジオ修了時に成績優秀賞受賞。英国トゥリニティ音楽院首席卒業。レイランド音楽祭声楽コンクール第１位。新・波の会日本歌曲コンクール入選。
モーツァルト・オペラのスーブレット、「ヘンゼルとグレーテル」グレーテル、「電話」ルーシー、「ラ・カリスト」リンフェーア（日本初演）、青島広志「火の鳥<ヤマト編>」カジカ、木下牧子「不思議の国のアリス」（初・再演）白兎などを演じる他、日英双方でリサイタル開催、またコンサート歌手、宗教曲ソリストとしても活動。二期会、東京室内歌劇場、横浜シティオペラ各会員。

榊原紀保子
Piano

東京音楽大学卒業、同校研究科修了。
PTNA ピアノコンペティション全国大会入選、東京文化会館新進音楽家デビューコンサートオーディション合格、JILA 音楽コンクール室内楽部門第１位、大阪国際音楽コンクール２台ピアノ部門第１位。在学中からソロ以外にも室内楽・声楽・オペラ・ミュージカル伴奏等に積極的に取り組みさまざまなジャンルで活動を行う。
国内外の演奏家との共演も多く、SUK 室内オーケストラの日本ツアーにピアノ・チェンバロ奏者として同行。Talich 弦楽四重奏団とは 2002 年・2005 年と二度にわたり共演。また 2003 年からは『オペラシアターこんにゃく座』のピアニストとして全国各地で公演を行っている。

小泉 百合香　*Violin*

武蔵野音楽大学卒業。卒業演奏会出演。
第 9 回日本クラシック音楽コンクール審査員特別賞、市川市新人演奏会優秀賞受賞。
現在、（財）ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉ヴァイオリン奏者を務める傍ら、クァルテット エスポワール、クァルテット コルダのメンバーとして室内楽も意欲的に活動を行う。
２０１２年、ストリングアンサンブル コハクのメンバーとしてショスタコーヴィチ 弦楽四重奏全曲チクルスに出演。

伊藤　圭　*Clarinet*

1977 年宮城県出身。2001 年東京藝術大学卒業。2002 年 JILA 音楽コンクール室内楽部門第 1 位。2004 年第 6 回日本クラリネットコンクール第一位。2006 年第 75 回日本音楽コンクール入選。これまでにクラリネットを千石進、日比野裕幸、野田祐介、山本正治、三界秀実、村井祐児の各氏に師事。室内楽を岡崎耕治、四戸世紀の各氏に師事。
現在、NHK 交響楽団首席クラリネット奏者。尚美ミュージックカレッジ専門学校、上野学園、フェリス女学院、愛知県立藝術大学、東京藝術大学講師。